

Refo 500 *Connecting you, then and now*



宗教改革500年記念号

Chapel News No.139

大学礼拝

第139号 東北学院大学 2017年9月30日

巻頭言



宗教部長
野村 信

「福音の再発見」

「福音には、神の義が啓示されていますが、それは、始めから終わりまで信仰を通して実現されるのです。」

(ローマの信徒への手紙第一章十七節)

上記掲載の写真は、マルティン・ルターが、一五〇八年に移り住んだヴァイツェンベルクの修道院です。ここでルターは聖書の教授として講義を開始しましたが、「ローマ書」の講義を開始すると、聖書に記されている「神の救い」、すなわち「福音」を再発見することになりました。右に掲載した聖句がその一つです。

聖書が行き渡っている現代から考えると不思議に聞こえますが、当時、いかに「神の救い」が曖昧になっていたか、しかも聖書があまり読まれていなかったかがよく分かります。

ルターは二二才で修道院に入って十年近く、神が人間を救うとはどのようなことが良く分かりませんでした。聖書からはっきりと神の救いを知った時に、「自分がまったく生まれ変わった」(WA:54, S.185-6)ような感動に満たされ

ました。これは「塔の体験」と呼ばれています。ルターの研究室がここにあったからです。(上掲の写真の建物の塔)

この後、一五一七年に、ヨハン・ティツェルがヴァイツェンベルクの近くに免償符を販売しに来た時、これに疑問を感じて、今まで抱えてきた問題も含めて「九五ヶ条の論題」を掲示しました。十月三十一日とされています。

この論題には、当時のキリスト教に対する本質的な問題が含まれており、書き写されてヨーロッパ中に広がり、キリスト教を刷新する運動にまで発展しました。これを「宗教改革」と言い、プロテスタントと呼ばれる教会の群れが世界史の舞台に登場しました。

プロテスタントの教会はヨーロッパのみならず、アメリカなど世界各地に広がり、本学も、アメリカのドイツ改革派と呼ばれるプロテスタントの宣教師たちによって創設されました。

今年、ルターが「九五ヶ条の論題」を発表してからちょうど五百年にあたり、世界各地で記念の行事が行われています。上掲のロゴ、Refo 500 は、オランダやドイツ、スイスなどを中心に広がっている記念祭のシンボルです。

宗教改革の始まりを振り返る時、私たちも、「聖書」をよく読み、最初に書かれた教えを堅持していく大切さを再確認させられます。引き続き、大学礼拝では、聖書が説き明かされますので、大切な一時として、良く聴き、学び、私たちの大切な養いとしていきましょう。

(写真撮影野村、二〇〇四年)

宗教改革の反照

東北学院院長

佐々木 哲夫



「今年には宗教改革五百周年です」と言われても、ルターやカルヴァンの名前を連想するぐらいで、今の自分とは何の関係もないと思うかも知れません。でも、実は、大いに関係があるのです。記念年ですので、宗教改革と皆さんとの関わりを四つ挙げてみます。

●キリスト教学校の始まり

東北学院は、キリスト教学校です。近代西欧の大学は、一二世紀のボローニヤ大学やパリ大学に始まり、キリスト教文化の中で四学部構成の高等教育が行われてきました。他方、ルターは、子供の教育を家庭や修道院だけでなく国民学校(義務教育)として公に行い、

キリスト教教育により神と人にと奉仕する人材の育成を提起しました。すなわち、キリスト教学校です。東北学院で礼拝が守られ聖書の講義がなされるのは、大学の歴史や宗教改革の観点からふさわしいことです。

●礼拝で讃美歌を歌って邦訳聖書を読む

宗教改革以前の教会では、聖職者が聖歌を歌いラテン語訳の聖書を読んでいました。会衆は、歌うことも読むこともなく、定められた祈禱文を唱えては聞くだけの参加でした。ルターは、聖書を皆が読めるようにドイツ語に訳し、会衆が歌う讃美歌(コラール)を作曲しました。楽器オルガンの演奏が礼拝に導入されたのもこの時代です。十七世紀のプロテスタント作曲家バッハは、多くのカンタータやオルガン曲を作曲しました。東北学院の礼拝でも、ルター作詞作曲の讃美歌が歌われます。

●時計を見つつ勤勉に

宗教改革は、この世を聖なる領域から切り離された俗なる世界ではなく、神が等しく支配する神の

国と解しました。ですから、この世の仕事は、神が与えてくれる天職(Calling, Beruf)であり、そこから得る報酬は神からの恵みでした。これは、カルヴァンの予定説(人間に知らされない神の支配と導き)に基づく理解で、勤勉な労働(世俗内禁欲)が神への奉仕であると考えられました。時計工業がスイスで発展したのも宗教改革の所産(生活の合理化)です。講義に遅刻しないように腕時計を見るのも宗教改革の反照です。

●フランシスコ・ザビエルの来日

歴史の授業でフランシスコ・ザビエルが一五四九年に渡来しキリスト教を日本に伝えたことを学びました。これは、ルターの宗教改革に危機感を覚えたスペインの修道僧六人がカトリック信仰をプロテスタントより早く世界に伝えようとして宣教団体イエズス会を結成した結果です。イエズス会の人だつたザビエルが殉教覚悟で日本に来たのです。宗教改革の間接的結果として日本にキリスト教が伝えられたのです。幕末の開国推進の儒学者横井小楠は、キリスト教を倫理ある有益な宗教と評しています。

東北学院は、宗教改革の伝統を継承している教育機関です。実学を学んで天職を得て自立するだけでなく、神と人にと奉仕することのできる自律した人間の育成をめざしています。



Campus messages

各キャンパス担当の先生たちからのご挨拶

泉キャンパス

大学宗教主任 原田 浩司



聖書の最後に収録されるヨハネの黙示録の最終章にこの言葉があります。
「見よ、わたしはすぐに来る。…わたしはアルファであり、オメガである。最初の者にして、最後の者。初めであり、終わりである」(12-14節)。
季節の変わり目は曖昧で、今年は特に、夏の始まりと終わりが感覚的にあやふやで、いつの間にか秋になっていた感じがします。この秋もいつの間にか終わり、すぐに冬の季節がやって来ます。そして今年の冬も終わり、次の春が巡ってきます。「終わり」は意外と「すぐに来る」ものです。
秋となり、今年2017年の終わりも徐々に近づいてきます。そう思っているのも束の間、いつの間にか「すぐに来ます」。そして、4年間という大学生活も、いつの間にか終わりが来てしまいます。終りをしっかりと見据えながら今を見つめ直すことは、人生においてとても大切です。大学礼拝を通して、4年間の学生時代に豊かな四季の彩りを添えていただきたいと思います。

土樋キャンパス

大学宗教主任 吉田 新



『おしいれのぼうけん』(古田足日、田畑精一作)という絵本をご存知でしょうか。私の好きな絵本ですが、実は子供の時、読むのがとても怖かった本でもあります。しかし、怖いけれど何か惹きつけられて読んでしまいます。この本が好きな理由は、押し入れの中を冒険する二人がずっと手を握っていることです。物語の最初、主人公のさとしくんがあきらくんに「てだてをつなごう」と言います。二人はこの時から一緒に手をつないで歩みます。怖いねずみばあさんの前に立たされた時も二人は手をつないでいます。大変な時もきつと誰かが私たちに向かって「手をつなごう」と言ってくれる。この絵本はそう教えているように思えます。「愛には恐れがない」(一ヨハ四：一八)と聖書は伝えます。誰かが自分のことをしっかりと見ていて手を握ってくれること、それが愛です。この愛を知れば、私たちには恐れがなくなります。何かに恐れている時、聖書の言葉を思い起こしたいと思えます。

多賀城キャンパス

大学宗教主任 北 博



例年になく涼しい夏が過ぎ、秋が巡ってきました。夏休みが終わって大学に戻って来た皆さんの中には、まだ調子が戻らないと言う方もいるかもしれません。無理な生活を避け、できるだけバランスの良い食事を取り、規則正しい生活を送るように心がけましょう。
東北学院大学は、キリスト教を建学の理念に掲げる学校です。毎朝礼拝があるのはそのためです。これは教育の重要な一環であり、その要石と言っても過言ではありません。生活のリズムを取り戻すためにも、礼拝には出席するように心がけましょう。また、専門領域の知識や技術を会得するだけでなく、礼拝やキリスト教科目から、幅広い教養と人生に対する心構えを身に付けてください。

聖書の学び会(聖書研究会)の様子

誰でも参加できますよ!



阿久戸義愛先生のグループ



二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる(マタイ18:20)。単純に楽しいからみんなが集まって、聖書を読んだり話したりする。ただそれだけのことで、そういう時のみんなの笑顔は本当に素敵で、「きつとここにイエス様も一緒にいてくださっているに違いない」と、そう思います。



吉田 新先生のグループ



わたしたちの聖書研究会は聖書を読むだけでなく、現代の社会的な問題を聖書の視点から考えています。毎回、テーマを変え、たとえば格差社会や女性への差別問題についてなどじっくり話し合っています。参加されたい方は吉田までご連絡ください。お待ちしております!

野村 信先生のグループ



私の担当している聖書の学び会は、「ギリシャ語ラテン語聖書読書会」というグループと「み言葉を喜び、歌う」というグループです。希語羅語読書会は、土樋で月に一回二時間ほどかけて行っています。原典のギリシャ語で聖書を読むと、日本語の聖書ではつかみきれない微妙なニュアンスを発見できます。それをみんなで楽しんでいきます。時にラテン語の訳を見たり、英語の訳はどうなっているかを調べたりもします。もう一つの会は、聖歌隊の人々の集まりです。声楽家の中川郁太郎先生がもっぱら讚美歌の合唱指導と歌詞の意味の解説をしてくれます。どちらも楽しい会ですから関心のある人は是非出席してください。





学院大夏の風物詩 「サマーカレッジ2017」 現地レポート

大学宗教主任

藤原 佐和子



2017年8月7日から8日にかけて、東北学院大学名物の第43回サマーカレッジが開かれました。台風の影響が心配でしたが、楽しい学びと交流の時間を持つことができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

1日目は、土樋キャンパスのホワイ記念館に集合です。山田保さん(総人4年)がガラテヤ5・13(愛によって互いに仕えなさい)からお話された開会礼拝の後、小田部進一先生(玉川大学)による(講演1)「ルターから今を考える」を聴きました。宮城蔵王に移動後、宗教改革500周年の話題を中心に話し合いました。午後

は、豊かな自然の中でソフトボール、サッカーなどを楽しむ予定でしたが、雨天中止、DVDを鑑賞しました。

「証の時」では、茂泉はなさん(総人2年)、福本菜生さん(経営3年)、中田祐輔さん(事務局)が、キリスト教との出会い、戸惑い、気づきについてご自身の言葉でオープンに語られました。聴き手の心が励まされるような「サマーカレッジらしい」ひとときです。その後、東すみれさん(言語2年)によるギター弾き語りのリードで、皆で讃美歌を歌ったり、「ウイנק殺人事件」(犯人にウイנקされたら倒れるのですよ)などのレクや花火で遊んだりしてから、「夕べの祈り」では、野村信先生が詩篇23編(主は私の羊飼い)をもとにお話されました。後は温泉を楽しんで就寝、なのですが、夜を徹しておしゃべりを楽しんだ参加者も多かったようです。(青春ですね)

2日目は、原田浩司先生による(講演2)「過去の宗教改革と君たちの明日」を聴きました。「たとえ明日世界が滅ぶとも、私は今日りんごの木を植える」というルターのものどされ

る言葉が印象に残りました。日頃から何かにつけて「しょうがない、意味がない」と思いがちな私たちでも、「それでも、にもかかわらず、しかし」の精神(＝宗教改革の精神)をもって今日を精一杯生きられると語られました。吉田新先生の司会進行で、グループごとに「学んだこと3つ」を考え、紙にキーワードやイラストを描いてプレゼンしました。閉会礼拝では、藤江惟志さん(共生2年)がローマ7・6(文字に従う古い生き方ではなく、霊に従う新しい生き方である)からお話しされました。

台風のため、楽しみにしていたモフモフの殿堂「蔵王キツネ村」には行けませんでしたが、こけしの絵付け(＝)体験で大いに盛り上がりました。サマーカレッジの様々なプログラムを通して、学生さんたちがいかに多彩な才能に恵まれ、神と人から大切に育てられていくかに思い至ると、この私にさえ、神の祝福が届くかのようなです。以上、現場からお伝えしました。



「希望の風は外からくる」

聖書 ヨハネによる福音書20章19～23節
ローマの信徒への手紙第15章13節



日本基督教団
代田教会牧師
ひらの かつき
平野 克己

「希望の源である神が、信仰によって得られるあらゆる喜びと平和とであなたがたを満たし、聖霊の力によって希望に満ちあふれさせてくださるよう。」

「希望の源である神」。不思議な言葉であることに気がつくでしょうか？

学校ではそのように教えません。学校が教えるのは、希望とは、ひとりひとりが胸の内に抱くものです。しかし、聖書は異なることを語ります。「希望の源である神」。希望は自分の内側から生まれるものではない。外側から、神から訪れるというのです。

さらに、「聖霊の力によって希望に満ちあふれさせてくださるよう」と続きます。聖書で「聖霊」という言葉が出てきたらすぐ思いついてほしいのは、「風」という言葉です。「聖霊」と訳されている言葉は、「風」「息」「いのち」と訳し変えることのできる文字が使われているのです。

信仰の手を高く掲げる。その手をかざ

して右に左に動かしてみよう。すると風を捕まえることができる。どんな場所にも風が吹いているのを知ることができる。そして、その風と共に希望が訪れるというのです。

主イエスが復活した日、弟子たちはひと部屋に集まっていた。彼らは恐れでいっぱいでした。つい二日前、イエスが十字架につけて殺された。イエスを殺した人々が、自分たちをも捕らえ、死に追い込むかもしれない。そうして、自分たちのいる家の戸に鍵をかけて身を潜めていたのです。

愛に生き、信じることの大切さを語り、希望の種を蒔き続けた主イエスを殺したのは、当時の社会システムでした。権力者たちにとって、主イエスはあまりにもいきいきと生きていたので、そのみずみずしさ、その自由さに、自分たちが従っている社会システムが覆される危険を感じたのです。

悪の力、闇の力は、私たちの心の中から生じるだけではありません。社会というヘビシステムを乗っ取りながら私たちが恐れさせ、脅かし、従属させようとしています。

一九三〇年代アメリカ。不況にあえぐ農村に大規模資本主義農業が入り込みます。トラクターが銀行と共に入り、農民から土地を奪っていききました。そのような社会背景のもと、米国の小説家スタインベックは、『怒りの葡萄』を著します。そこに、トラクターが柔らかな土地を陵辱しながら、怪物のように

農地を走り回る描写があります。しかも皮肉にも、トラクターの運転手にはこの怪物を制御できない。一度走り出した化け物のようなトラクターは、誰にも止めることができないのだ、というのです。

あの日も今もヘビシステムへの恐れに身を縮こまらせる者たちを主イエスが訪ねてくださいます。そして「息を吹きかけて」言われます。「聖霊を受けなさい！閉ざされた部屋の中に希望の風が吹き渡ります。」

ヘビシステムには、主イエスを殺すことはできませんでした。主イエスは、復活されたばかりのみずみずしい息吹を、この世界に吹き渡らせ続けます。時には、私たちが癒すやさしい風として、時には、私たちが足もとから揺さぶる荒々しい風として。

東北学院は、礼拝堂のある大学です。大学というヘビシステムの中に、主イエス・キリストの復活の息吹が吹き渡る学園です。

もしもみなさんの大学生生活が、単位を取り、就職に備え、自分の内側に残されている希望をのぞき込むだけの日々であるとしたら、なんとつまらないことでしょうか。

どうぞ信仰の手を高く掲げてください。その手を、主イエスの方に向けてください。本当に大切なものは外側から訪れます。

◆平野 克己氏

一九六二(昭和37)年三月生まれ

学歴

一九八五(昭和60)年三月 国際基督教大学卒業
一九八九(平成1)年三月 東京神学大学大学院修士課程修了
二〇〇三(平成15)、二〇一三(平成25)年 米国テューク大学神学部客員研究員

職歴

一九八九(平成1)年四月 日本基督教団阿佐ヶ谷教会牧師
一九九二(平成4)年四月 日本基督教団金沢長町教会牧師
二〇〇〇(平成12)年四月 日本基督教団代田教会主任牧師(現在に至る)
同教会付属幼稚園園長
他にも、説教塾全国委員長、雑誌『Memento』(キリスト新聞社)編集主幹、雑誌『説教塾想アレティア』編集委員、牧会塾講師(2015、2016年度)を歴任。

主な著書

●『王の祈り・イエスと歩む旅』(日本キリスト教団出版局、2005)「これだけは読んでおきたいキリスト教書100選」(2016年)選出図書
●『いま、アメリカの説教書は』(キリスト新聞社、2006)
●『祈りのともじび』(編集、日本キリスト教団出版局、2015)



「遣り直し可能な人生」

聖書 ルカによる福音書22章54～62節



日本基督教団
泉高森教会牧師
あべ ゆうじ
阿部 祐治

春季宗教強調週間の特別伝道礼拝に御奉仕させていただけることを大変うれしく思います。小生は今春4月より泉高森教会の牧師として奉仕することになりました。一九七一年東京神学大学大学院を卒業して、岡山、金沢、名古屋、岡山、東京の教会の牧師として歩んで45年になります。その間教師として成功した事よりも失敗した事の方が多かったと反省させられています。私共他人から話を聞くと、成功話よりも失敗話の方に耳を傾けるものではないでしょうか。聖書の中にも主イエスに出会った人々の様々な対応の様子が記されています。その中で十二弟子の中の二人に注目してみたいのです。その一人は「イスカリオテのユダ」です。ユダとは「彼を賛美しよう」という意味で、本来は地名で

あったそれが十二部族の名となり、やがて個人名になったのです。

彼は「シモンの子」と呼ばれ、弟子の中では唯一南部出身者であった。主イエスから会計を委されており信任が厚かった。そんなユダがやがて主イエスを裏切る事になる。太宰治著の短篇「駆け込み訴え」がある。それによるとユダは主イエスに出会いその魅力に引き付けられる。さらに同性愛的な感情をも覚える。当時ローマ抵抗の支配に武力をもって反抗する熱心党の一員であったかも知れない。主イエスの人気が昂まり、ユダは主イエスが地上的な救い主になる期待を抱いたが、主イエスはそれを無視し、自らその意志の無いことを明らかにされた。そのためユダは極度に失望して、主イエスを殺すことを計画していた律法学者、祭司長、長老達と云われる当時の指導者たちの所へ行き、祭司長たちの提案銀貨30枚というわずかな金額で主イエスを裏切る約束をしてしまう。その原因を聖書は「サタンが彼に入った」と記している。ユダは主イエスが弟子たちと共にゲッセマネの園で祈るために行った際、「接吻することによって主イエスを捕えることに協力して裏切る事になった。」

もう一人は「シモン・ペトロ」である。シモンはシメオン(神は聞いて下さる)という意味であり、十二部族の名とな

り、個人名となった、シモンは北部ガリラヤの漁師であり、主イエスの招きに応えて最初の弟子となった一人。バルヨナ(ヨナの息子)とも呼ばれ、十二人の代弁者として働いた。主イエスの大事な場面にヤコブ、ヨハネの三人のみが立ち会っている。ヤイロの嫁をいやす。山上の変容、ゲッセマネの園での祈り。主イエスのことを「あなたはメシア、生ける神の子です」と信仰告白をなした時、主イエスから「ペトロ」という渾名を付けられている。彼は大変人間的な人物で、自信家でもあり、人間中心的に判断し失敗した。信仰告白をした時も主イエスからサタンと叱られている。最後の晩餐の時主イエスが弟子たちの裏切りを予告された時「自分だけは裏切りませんと」大言壮語するのであるが、主イエスの予告通り三度主イエスを否んできました。時、「外を出て激しく泣いた」のである。

ユダもペトロも主イエスに従うことに失敗した。ユダは自分の失敗を悔いて反省し銀貨を神殿に投げ込んだ後、自ら首をくくって自死した。ペトロは復活の主イエスに再び出会うことによって、「私を愛しているか」と三度問われ「わたしの羊を飼いなさい」と使命に生きること赦されている。神は私共を愛し、悔い改めて、従うことを待っておられる。

◆阿部 祐治氏

一九四六(昭和21)年九月生まれ

学歴

一九六九(昭和44)年三月 東京神学大学卒業

一九七一(昭和46)年三月 東京神学大学大学院卒業

職歴

一九七一(昭和46)年四月 日本基督教団 蕃山町教会伝道師

一九七四(昭和49)年四月 日本基督教団 金沢教会副牧師

内灘伝道所牧師
北陸学院中学校、高校、短期大学講師

一九八二(昭和57)年四月 日本基督教団 尾張一宮教会牧師 教区書記 常置委員

金城学院中学校、大学講師
一九九三(平成5)年四月 日本基督教団 蕃山町教会牧師 教区常置委員

一九九九(平成11)年七月 日本基督教団 自由が丘教会牧師

日本基督教団 全国連合長老会常置委員

日本基督教団 東日本連合長老会議長

日本基督教団 改革長老教会協議会議長、代表者

二〇一七(平成29)年四月 日本基督教団 泉高森教会牧師(現在に至る)



秋の行事と予告

爽りの秋を迎え、続いてクリスマスを迎える季節が近づいてきました。今後の幾つかの行事についてお知らせします。

1 秋季特別伝道礼拝のお知らせ

年に2回、特別伝道礼拝を行います。春は教会に仕える牧師の先生方をお招きして聖書のお話を聞き、秋は社会で活躍している方々からお話をお伺いします。今秋の予定です。

◆泉キャンパス礼拝堂

日時 2017年10月11日(水)

10時10分～11時00分

講師 松谷 信司氏

(キリスト新聞社代表取締役社長)

◆多賀城キャンパス礼拝堂

日時 2017年10月11日(水)

10時10分～11時00分

講師 関川 祐一郎氏

(日本基督教団東北教区被災者支援センター・エマオ石巻チャプレン)

◆土樋キャンパス礼拝堂(昼)

日時 2017年10月12日(木)

10時10分～11時00分

講師 松谷 信司氏

(キリスト新聞社代表取締役社長)



2 宗教改革記念日

(10月31日)

ドイツのヴィッテンベルク大学の聖書学の教授であったマルティン・ルターは、1517年10月31日に、免罪符の販売などに関する公開質問状(九十五箇条の論題)を聖堂の門に張り出しました。これがきっかけとなって宗教改革が各地に広がり、プロテスタントと呼ばれるキリスト教の新しい教会の群れが誕生しました。私たちの東北学院はこのプロテスタント(福音主義、新教とも呼ばれる)教会の集まりに属しています。当日は大学礼拝やキリスト教学で、この記念日の意義について触れることと思います。

3 収穫感謝日

(11月第四木曜日)

この季節に世界の各地で秋の収穫のお祭りが行われますが、キリスト教では、特に米国とカナダで盛大に祝われます。その起源は、1620年にさかのぼりますが、メイフラワー号に乗って新天地を求めてたびだつた清教徒たちはアメリカ東海岸に上陸しました。しかし移住者の半数が失われるほど過酷な時を過ごし、翌年の秋に収穫が与えられて生き延びることができました。これを記念してお祭りを行います。秋の爽りを感じると同時に、神に養われていること覚え、感謝する日です。

4 待降節(アドベント)

イエス・キリストの誕生を祝うクリスマス(12月25日)の前の四週間を「待降節」と呼び、その最初の日曜日を待降節第一主日と定め、教会の暦は始まります。キリストの誕生を暗い世界に光が誕生したと聖書では理解するので(イザヤ9:1、ヨハネ1:5)、夜の長いこの時期に光なるキリストが到来したことを祝うのは、時季にかなって嬉しいものです。家屋や街路にイルミネーションを飾るといふ習慣は日本全国に定着しました。大学の諸行事は左記を参照してください。

編集後記

夏休みに入った八月のほぼいと月は、湿度の高い、雨の多い、時に肌寒い日々でしたが、秋の季節になり、美味しい果物や穀物が収穫できることは嬉しいことです。自然は私たちにたくさんの恵みをもたらしてくれませんが、容赦なく奪う時もあります。良い日に蓄え、悪い日のために備えるとは、昔からの日本人の知恵です。皆さんも、しっかり蓄えながら、上手に消費してください。それは食料や金銭の話だけではなく、皆さんの学びについても言えます。大いに学んで吸収しつつ、それを実践していきましょう。すると学びもさらに深まり、また活動も広がっていくでしょう。

二〇一七年九月三〇日

東北学院大学宗教部

編集者 野村 信

〒九八〇一八五一一

仙台市青葉区土樋一丁目

三番一号



宗教部よりお知らせ

クリスマス礼拝のご案内

★第29回泉キャンパスクリスマス

12月1日(金) 18時30分～

泉キャンパス礼拝堂

第一部

礼拝

説教者：日本基督教団仙台南伝道所

平賀 真理子 牧師

第二部

クリスマスコンサート

クリスマス・メドレー演奏、学生有志合唱団、みんなで歌おう、キャン

ドルサービス 他

★大学クリスマス

泉キャンパス：

12月14日(木) 10時25分～

土樋キャンパス：

12月14日(木) 16時20分～

多賀城キャンパス：

12月15日(金) 10時25分～

説教者：東京神学大学准教授

長山 道氏

オラトリオ「メサイア」合唱